

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス つなぐ研究学園教室		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52	(回答者数) 45
○従業者評価実施期間	令和8年3月2日		令和8年3月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小学校4年生頃から高校生まで、多感な時期や進学といった環境変化の際も、同系列教室との密な連携により、個々の特性を理解したまま途切れない支援を提供しています。	高学年・中高生としての自覚を促すため、活動プログラムを固定化しないように工夫しています。また、職員間で進捗状況の共有や意見を出し合いながら活動プログラムを考えることにより、児童の特性や課題に考慮した活動プログラムを提供しています。本人の意向を尊重した活動選択や役割分担も行っています。	平日の活動プログラムにおいて、集団療育だけではなく、個々に合わせた課題や苦手感などに目を向けられるような療育の提供を目指し、個別的配慮や支援を行っています。また、就労基礎形成の一環として、ICT活用支援、具体的な場面設定でのSST(ソーシャルスキルトレーニング)など、卒業後の自立を見据えた支援内容をさらに充実させてまいります。

2	集団活動を通じて、ルール理解、協調性、役割意識、集団行動への適応力の形成を支援しています。	課題を細分化して提示することで、苦手な課題でも楽しく挑戦できる環境を作り、自信を持って集団活動に参加できるように促します。	児童同士が話し合ってルールを決めるなどの時間を設け、自分の意見を伝えつつ他者の意見も尊重するようなチームワーク形成を支援していきます。他者との調整力を養うことで、円滑な人間関係を築く力を育てていきます。
3	児童の自立に向けた課題や、思春期特有の悩みについて保護者と共有し、家庭・事業所が共有のゴールを目指せる関係を築いています。	定期的な面談に加え、LINEやメールなどを活用して日々の変化（情緒面や対人関係など）を迅速に共有しています。また、保護者からの相談に対しては、アドバイスをを行い、心理的サポートに努めています。また、参観期間を設けて保護を通じて児童の成長を直接みて頂く機会も大切にしています。	保護者同士が「進路」や「自立」といったテーマについて情報交換できる場を拡充し、悩みや経験を共有し合えるコミュニティ形成を目指します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内のスペースが限られており、静的な活動と動的な活動の分けや、十分な運動スペースの確保に課題があります。	室内での事故防止を対策し、落ち着いて活動できる環境づくりを優先しているため、大きな動きを伴う運動を行うには場所が限られてしまうのが現状です。	定期的に近隣の公園を活用する他、体育館利用を計画し、児童が安全かつダイナミックに身体を動かせる機会を確保しています。
2	長期休暇期間中における早朝からの開所体制が、現時点では整っていません。	スタッフの配置基準の遵守と、質の高い支援を提供するための準備時間の確保が必要であるため、全てのニーズへの対応が難しい状況です。	保護者の就労時間状況を伺い、可能な限りの柔軟な対応に努めます。また、今後も学童保育等との併用児童に対しては、各施設への送迎を継続をしていきます。

3	安全かつ円滑な送迎サービスを維持するため、送迎可能エリアに一定の範囲を設けています。	安全運転の徹底および、車内での見守り、人員の配置といった安全管理を維持するため。	契約時に送迎範囲を説明を行い、ご納得頂いた上での利用開始を徹底しています。今後も効率敵なルートを随時検討し、安全な送迎サービスを提供できるように努めます。
---	--	--	---